**２０１７．２．８**

**シルクロードの旅**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**吉田洋一**

**１．西安（長安）＜その１＞**

**１）西安市内**

　　・現在の**西安**は**明時代**(1368~1644)に建設されたもの。**都城**は周囲12㎞である。

・現**西安**の地、**長安**に都を置いたのは、**周**(前1134)、**秦**(前221・咸陽)、**前漢**(前202)、**隋**(51)

**唐**(619~907)の王朝であり、全盛期は8ｃ初めの**唐王朝**である。

　　・**秦始皇帝**は西安の**渭水**の対岸・**咸陽**に都を置き、現**西安**の西方13㎞の地に大宮殿・**阿房宮**

　　を建設したが、未完に終わった。

　　・**始皇帝**(前259~210)**陵**は **西安市**の東30㎞にあり、広さ2万m2余　「[**史記**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%B2%E8%A8%98)」には**始皇帝**の遺体

安置場所に「[水銀](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B4%E9%8A%80)の川や海が作られた」と述べられている。陵の６ｋｍ東南に**兵馬俑**が発見された。

・**漢の都城**は現**西安**城壁の西北、**渭水**に面して築かれていた。

・**漢武帝**（在位前**141~前87**）は対**匈奴**挟撃作戦のため**張騫**（? -[**紀元前114年**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B4%80%E5%85%83%E5%89%8D114%E5%B9%B4)）を**大月氏国**に派遣した。**張騫**は１３年後に帰国し、**西域諸国**の情報を持ち帰った。

・**隋**･**唐時代**の**長安の都城**は東西10㎞・南北8㎞、周囲36㎞。現西安都城の地にあった。

　　 ･**玄奘三蔵**(602~664)は仏典の研究には原典による他ないと決意し、629**長安**の開遠門を出て国禁を犯して出国し、**河西回廊**を経て**西域**から**インド**に向った。

**２．河西回廊と敦煌**

**１）河西回廊**

　　・**祁連山**とゴビタンに挟まれた細長いステップが**河西回廊**と呼ばれ、**漢武帝**により前111に**武威・張掖・酒泉・敦煌**の**河西四郡**が置かれた。

　　・**祁連山脈**は東西2000㎞に亘り、6500㎡級の高峰が連なる。**祁連**は**匈奴**の言葉で「天」を意味した。

　**２）敦煌**

　　・**敦煌**の地は**月氏**の領域だったが、**前150頃匈奴**が侵攻してその支配下となる。

　　・その後**武帝**の**匈奴**攻略により**河西四郡**と共に、**敦煌郡**の西に[**玉門関**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8E%89%E9%96%80%E9%96%A2)と[**陽関**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%BD%E9%96%A2)が設置され、**敦煌**は**漢**の**西域**経営の拠点となった。　西方からの[**汗血馬**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%97%E8%A1%80%E9%A6%AC)**・**[**ブドウ**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%96%E3%83%89%E3%82%A6)**・**[**ゴマ**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B4%E3%83%9E)などの産物や[**仏教**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BB%8F%E6%95%99)がこの地を通って**漢**に運ばれ、**漢**からは[**絹**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%B9)が西方へと運ばれた。

　　　・**後漢**滅亡後の[**五胡十六国時代**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E8%83%A1%E5%8D%81%E5%85%AD%E5%9B%BD%E6%99%82%E4%BB%A3)（304~439）には、前趙、[西涼](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E6%B6%BC)、続いて[**北魏**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E9%AD%8F)（386~534）の拠点となった。

　　　・**隋（581~）**・**唐**時代(618~)にも**西域**への玄関として重要な拠点だったが、**安史の乱(755~763**)により唐は弱体化し、[786年](https://ja.wikipedia.org/wiki/786%E5%B9%B4)以後70年間は[**吐蕃**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%90%E8%95%83)の支配下に入り、**唐**と**西域**との交易が断たれ**敦煌**は一気に廃れた。　851[**吐蕃**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%90%90%E8%95%83)**支配**から独立し**唐**との交易も復活したものの以前の繁栄はみられなくなった。

　　　・**唐**に続く**宋**時代(960~1279)に**チベット系の**[**タングート**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%BC%E3%83%88)が力をつけて[**西夏**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E5%A4%8F)を建てて、1036にこの地を占領した。1227に[**モンゴル帝国**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B4%E3%83%AB%E5%B8%9D%E5%9B%BD)が**西夏**を滅ぼし、引き続いて[**元**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%83_%28%E7%8E%8B%E6%9C%9D%29)の支配下に入る。　この時代になると中国と西方を結ぶルートが[**シルクロード**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%AB%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89)から南方の**海の道**へと移行し、**敦煌**は寂れた町へとなっていった。

　　**３）　莫高窟**

　　　・**莫高窟**は**敦煌**市の東南25kmの[**鳴沙山**](https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E9%B3%B4%E6%B2%99%E5%B1%B1&action=edit&redlink=1)の東の断崖に南北に1,600mに渡って掘られた仏教遺跡であり、仏教がこの地に布教された[**五胡十六国**時代](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%94%E8%83%A1%E5%8D%81%E5%85%AD%E5%9B%BD%E6%99%82%E4%BB%A3)・[前秦](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%8D%E7%A7%A6)の支配下の336から**莫高窟**掘削が始められた。

　　　・600あまりの洞窟があり、その中に2400余りの仏塑像が安置され壁には一面に壁画が描かれている。　元代まで千年にわたり掘り続けられたが、**唐**代が最も盛んだった。

　　　・[**敦煌文書**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%95%A6%E7%85%8C%E6%96%87%E7%8C%AE)が**莫高窟**の17窟に隠されたのは**西夏**の時代と考えられている。　その後**莫高窟**は忘れられた存在となったが、 1900にこの地の道士が偶然に壁に隠されていた17窟から大量の文書を発見した。

　　　・**敦煌文書**には仏教経典やゾロアスター経典その他幅広い分野の文書が含まれており、その研究は**敦煌学**とも呼ばれている。

**３．トルファン**

・[**天山山脈**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A9%E5%B1%B1%E5%B1%B1%E8%84%88)東部山間のトルファン盆地にあり、肥沃な土地で紀元前から**ブドウ**の産地であった。

　　シルクロードの要所として**匈奴**と**漢**、その後も幾多の政権の争奪の地となった。住民は**イラン系**

　　が主であったが、10cに**トルコ系**の**ウィグル人**が進出して現在に至っている。

　**１）交河故城**

**・前漢**の時代この地には**イラン系**のオアシス国家**車師国**があり、都城は**交河城**にあった。**交河城**は２つの川の交わる絶壁上の細長い台地を彫り削って作られた城郭である。

**・車師国**は**匈奴**の支配下にあったが、前72**前漢**が**匈奴**を駆逐し**高昌城**を築いて支配したものの

あまりに遠方で支配の維持が困難なため放棄した。そのころ**匈奴**も内紛で東西に分裂して弱体化し、**車師国**は両強国の支配から免れた。

　**２）高昌故城**

**・後漢**は91にこの地を支配し、現**高昌故城**を築いて基地とし、500人の兵を駐屯させた。**高昌城は**その後も640**唐**により陥落するまで**高昌国**の都城の位置を保ちつづけた。

・**後漢**滅亡後、**魏・晋・五胡十六国**時代は各々の政権の支配を受けたが、442**北魏**に滅ぼされた**匈奴系**の**北涼**王族の一派がこの地に侵入し、**高昌城**を乗っ取り**車師国**の領土を侵食した。

　 ・10**数年後モンゴル系**遊牧国家の**柔然**が進出し、**車師国**を滅亡させ漢族の傀儡政権・**高昌国**を建てて支配した。**柔然**は**トルコ系**の**高車**に撃退され、新しい**漢族**の**高昌王**が立てられた。王家は住民の反乱により度々交替したが、**麹氏王朝**に到って140余年続いた。

　　・**麹氏**は北方の**柔然、高車**、東方の**北魏**勢力のバランスを巧みに図って政権を維持した。その後北方では**突厥**が台頭し、東方では581に**北魏**から中国を**統一**した**隋**に移行した。**高昌王麴氏**は**突厥**の支配を受けながら609には**隋**にも入朝し、**煬帝**から歓迎を受けた。

　　・618**隋**が滅び、**唐**にとって代わられ、**突厥**も東西に分裂した。**高昌国**は**西突厥**の影響下にあったが、626王の**麹文泰**は**唐**の**太宗**にも使節を派遣した。

　　・この頃、**高昌国**に**唐**から**玄奘三蔵**が訪れ、**高昌王文泰**から熱烈な歓待を受け懇願されて城内の寺院に一月余り留まった。　**玄奘**は王からの当地滞在の強要を振り切ってインドへ旅立ったが、帰途に3年留まることを約束した。

　　・630国王**文泰**は**西突厥**と連合して**唐**の属国の**伊吾**を攻めた。これを契機に**高昌国**と**唐**は断絶状態となり、640**高昌国**は**唐**の攻撃により**西突厥**の支援も得られないまま滅亡した。　**玄奘**は約束通り帰途に滞在するつもりであったが、既に**高昌国**は滅びていた。

　**４）火焔山とベゼクリク千仏洞**

**・千仏洞**は10~13ｃの**ウィグル王国**時代に**火焔山**の断崖に掘られたもの。見事な壁画はムスリムにより損傷を受け、残された完全なものは19ｃ後半から世界の探検家によって持ち去られた。

**４．西安（長安）＜その２＞**

**１）大雁塔（大慈恩寺）**

　　・652に**唐**の**玄奘三蔵**がインドから持ち帰った657部の経典や仏像などを保存するために建立された。

　　・**玄奘三蔵**はインドに渡り、645**長安**に戻った。**太宗**帝も**玄奘**の業績を高く評価したので、16年前の密出国の件について**玄奘**が罪を問われることはなかった。

　　・**玄奘**は当初弘福寺で翻訳事業を開始したが、後**大慈恩寺**に移った。翻訳事業は664に亡くなる直前まで続けられた。

**２）華精池**

　　・**楊貴妃**（719~756）が唐**玄宗帝**(在位712~756)から浴を賜った温泉。**楊貴妃**は**玄宗帝**が寵愛し過ぎて[**安史の乱**](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%89%E5%8F%B2%E3%81%AE%E4%B9%B1)（756~763）を引き起こす要因となり、傾国の美女と呼ばれる。

　　・**楊貴妃**は**玄宗**の皇太子（第18子）妃であったが、[**740**](https://ja.wikipedia.org/wiki/740%E5%B9%B4)玄宗に見初められやがて后妃（貴妃）となる。

養子に迎えた軍人で節度使の**安禄山**（705～757）と、従兄の**楊国忠**との相克から**安史の乱**を招く。この乱で唐軍は敗走し、**楊貴妃**は絞殺され**玄宗**も退位させられ､以降**唐王朝**は衰退した。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(了)